嚴秘

（五部ノ内五號）

日本國憲法

我等日本國人民ハ、國民議會ニ於ケル正當ニ選擧セラレタル我等ノ代表者ヲ通シテ行動シ、我等自身及我等ノ子孫ノ爲ニ諸國民トノ平和的協力及此ノ國全土ニ及フ自由ノ祝福ノ成果ヲ確保スヘク決心シ、且政府ノ行爲ニ依リ再ヒ戰爭ノ恐威ニ訪レラレサルヘク決意シ、茲ニ人民ノ意思ノ主權ヲ宣言シ、國政ハ其ノ權能ハ人民ヨリ承ケ其ノ權力ハ人民ノ代表者ニ依リ行使セラレ而シテ其ノ利益ハ人民ニ依リ享有セラルトノ普遍的原則ノ上ニ立ツ此ノ憲法ヲ制定確立ス、而シテ我等ハ此ノ憲法ト牴觸スル一切ノ憲法、命令、法律及詔勅ヲ排斥及廢止ス

我等ハ永世ニ亘リ平和ヲ希求シ且今ヤ人類ヲ搖リ動カシツツアル人

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

間關係支配ノ高貴ナル理念ヲ滿全ニ目覺シテ、我等ノ安全及生存ヲ
維持スル爲世界ノ平和愛好諸國民ノ正義ト信義トニ依倚センコトニ
意ヲ固メタリ、我等ハ平和ノ維持ノ爲ニ橫暴、奴隷、壓制及無慈悲ヲ
永遠ニ地上ヨリ追放スルコトヲ主義方針トスル國際社會內ニ名譽ノ
地位ヲ占メンコトヲ欲求ス、我等ハ萬國民等シク恐怖ト缺乏ニ處ケ
ラルル憂ナク平和ノ裏ニ生存スル權利ヲ有スルコトヲ承認シ且之ヲ
表白ス

我等ハ如何ナル國民モ單ニ自己ニ對シテノミ責任ヲ有スルニアラス
シテ政治道德ノ法則ハ普遍的ナリト信ス、而シテ斯ノ如キ法則ヲ遵
奉スルコトハ自己ノ主權ヲ維持シ他國民トノ主權ニ基ク關係ヲ正義
付ケントスル諸國民ノ義務ナリト信ス

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

我等日本國人民ハ此等ノ尊貴ナル主義及目的ヲ我等ノ國民的名譽、
決意及總力ニ懸ケテ嚮フモノナリ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第一章　皇帝

第一條　皇帝ハ國家ノ象徴ニシテ又人民ノ統一ノ象徴タルヘシ彼ハ其ノ地位ヲ人民ノ主權意思ヨリ承ケ之ヲ他ノ如何ナル源泉ヨリモ承ケス

第二條　皇位ノ繼承ハ世襲ニシテ國會ノ制定スル皇室典範ニ依ルヘシ

第三條　國事ニ關スル皇帝ノ一切ノ行爲ニハ内閣ノ輔弼及協贊ヲ要ス而シテ内閣ハ之カ責任ヲ負フヘシ

皇帝ハ此ノ憲法ノ規定スル國家ノ機能ヲノミ行フヘシ彼ハ政治上ノ權限ヲ有セス又之ヲ把握シ又ハ賦與セラルルコト無カルヘシ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

皇帝ハ其ノ機能ヲ法律ノ定ムル所ニ從ヒ委任スルコトヲ得

第四條　國會ノ制定スル皇室典範ノ規定ニ從ヒ攝政ヲ置クトキハ皇帝ノ責務ハ攝政之ヲ皇帝ノ名ニ於テ行フヘシ而シテ此ノ憲法ニ定ムル所ノ皇帝ノ機能ニ對スル制限ハ攝政ニ對シ等シク適用セラルヘシ

第五條　皇帝ハ國會ノ指名スル者ヲ總理大臣ニ任命ス

第六條　皇帝ハ内閣ノ輔弼及協賛ニ依リテノミ行動シ人民ニ代リテ國家ノ左ノ機能ヲ行フヘシ卽國會ノ制定スル一切ノ法律、一切ノ内閣命令、此ノ憲法ノ一切ノ改正竝ニ一切ノ條約及國際規約ニ皇璽ヲ鈐シテ之ヲ公布ス

國會ヲ召集ス

⊗行ヲ改ム

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

⊗一行下ゲル

國會ヲ解散ス

總選擧ヲ命ス

⊗國務大臣、大使及其ノ他國家ノ官吏ニシテ法律ノ規定ニ依リ其ノ任命又ハ囑託及辭職又ハ免職カ此ノ方法ニテ公證セラルヘキモノノ任命又ハ囑託及辭職又ハ免職ヲ公證ス

大赦、恩赦、減刑、執行猶豫及復權ヲ公證ス

榮譽ヲ授與ス

外國ノ大使及公使ヲ受ク

適當ナル式典ヲ執行ス

第七條　國會ノ許諾ナクシテハ皇位ニ金錢又ハ其ノ他ノ財產ヲ授與スルコトヲ得ス又皇位ハ何等ノ支出ヲ爲スコトヲ得ス

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第二章　戰爭ノ廢棄

第八條　國民ノ一主權トシテノ戰爭ハ之ヲ廢止ス他ノ國民トノ紛爭解決ノ手段トシテノ武力ノ威嚇又ハ使用ハ永久ニ之ヲ廢棄ス

陸軍、海軍、空軍又ハ其ノ他ノ戰力ハ決シテ許諾セラルルコト無カルヘク又交戰狀態ノ權利ハ決シテ國家ニ授與セラルルコト無カルヘシ

第三章　人民ノ權利及義務

第九條　日本國ノ人民ハ何等ノ干渉ヲ受クルコト無ク一切ノ基本的人權ヲ享有スル權利ヲ有ス

第十條　此ノ憲法ニ依リ日本國ノ人民ニ保障セラルル基本的人權ハ人類ノ自由タラントスル積年ノ鬪爭ノ結果ナリ時ト經驗ノ堆

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

場ノ中ニ於テ永續性ニ對スル嚴酷ナル試練ニ克ク耐ヘタルモノニシテ永世不可侵トシテ現在及將來ノ人民ニ神聖ナル委託ヲ以テ賦與セラルルモノナリ

第十一條　此ノ憲法ニ依リ宣言セラルル自由、權利及機會ハ人民ノ不斷ノ監視ニ依リ確保セラルルモノニシテ人民ハ其ノ濫用ヲ防キ常ニ之ヲ共同ノ福祉ノ爲ニ行使スル義務ヲ有ス

第十二條　日本國ノ封建制度ハ終止スヘシ一切ノ日本人ハ其ノ人類タルコトニ依リ個人トシテ尊敬セラルヘシ一般ノ福祉ノ限度内ニ於テ生命、自由及幸福探求ニ對スル其ノ權利ハ一切ノ法律及一切ノ政治的行爲ノ至上考慮タルヘシ

第十三條　一切ノ自然人ハ法律上平等ナリ政治的、經濟的又ハ社

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

會的關係ニ於テ人種、信條、性別、社會的身分、階級又ハ國籍
起源ノ如何ニ依リ如何ナル差別的待遇モ許容又ハ默認セラルル
コト無カルヘシ

爾今以後何人モ貴族タルノ故ヲ以テ國又ハ地方ノ如何ナル政治
的權力ヲモ有スルコト無カルヘシ

皇族ヲ除クノ外貴族ノ權利ハ現存ノ者ノ生存中ヲ限リ之ヲ廢止
ス

榮譽、勳章又ハ其ノ他ノ優遇ノ授與ニハ何等ノ特權モ附隨セサ
ルヘシ又右ノ授與ハ現ニ之ヲ有スル又ハ將來之ヲ受クル個人ノ
生存中ヲ限リ其ノ效力ヲ失フヘシ

第十四條　人民ハ其ノ政府及皇位ノ終局的決定者ナリ彼等ハ其ノ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

公務員ヲ選定及罷免スル不可譲ノ權利ヲ有ス

一切ノ公務員ハ全社會ノ奴僕ニシテ如何ナル團体ノ奴僕ニモアラス

有ラユル選擧ニ於テ投票ノ秘密ハ不可侵ニ保タルヘシ選擧人ハ其ノ選擇ニ關シ公的ニモ私的ニモ責ヲ問ハルルコト無カルヘシ

第十五條　何人モ損害ノ救濟、公務員ノ罷免及法律、命令又ハ規則ノ制定、廢止又ハ改正ニ關シ平穏ニ請願ヲ爲ス權利ヲ有ス又何人モ右ノ如キ請願ヲ主唱シタルコトノ爲ニ如何ナル差別的待遇ヲモ受クルコト無カルヘシ

第十六條　外國人ハ平等ニ法律ノ保護ヲ受クル權利ヲ有ス

第十七條　何人モ奴隷、最奴又ハ如何ナル種類ノ奴隷役務ニ服セ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

シメラルルコト無カルヘシ犯罪ノ爲ノ處罰ヲ除クノ外本人ノ意
思ニ反スル服役ハ之ヲ禁ス

第十八條　思想及良心ノ自由ハ不可侵タルヘシ

第十九條　宗教ノ自由ハ何人ニモ保障セラル如何ナル宗教團体モ
國家ヨリ特別ノ特權ヲ受クルコト無カルヘク又政治上ノ權限ヲ
行使スルコト無カルヘシ

何人モ宗教的ノ行爲、祝典、式典又ハ行事ニ參加スルコトヲ強
制セラレサルヘシ

國家及其ノ機關ハ宗教教育又ハ其ノ他如何ナル宗教的活動ヲモ
爲スヘカラス

第二十條　集會、言論及定期刊行物並ニ其ノ他一切ノ表現形式ノ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

自由ヲ保障ス檢閲ハ之ヲ禁シ通信手段ノ祕密ハ之ヲ犯ス可カラス

第二十一條　結社、運動及住居選定ノ自由ハ一般ノ福祉ト抵觸セサル範圍内ニ於テ何人ニモ之ヲ保障ス

何人モ外國ニ移住シ又ハ國籍ヲ變更スル自由ヲ有ス

第二十二條　學究上ノ自由及職業ノ選擇ハ之ヲ保障ス

第二十三條　家族ハ人類社會ノ基底ニシテ其ノ傳統ハ善カレ惡シカレ國民ニ滲透ス婚姻ハ男女兩性ノ法律上及社會上ノ平ヲ可ラサル平等ノ上ニ存シ兩親ノ協力ニ依リ維持セラルヘシ此等ノ原則ニ反スル諸法律ハ廢止セラレ配偶ノ選擇、財產權、相續、

外務省
外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

住所ノ選定、離婚並ニ婚姻及家族ニ關スル其ノ他ノ事項ヲ個人ノ威嚴及兩性ノ本質（的平等）ニ立脚スル他ノ法律ヲ以テ之ニ代フヘシ

第二十四條　有ラユル生活範圍ニ於テ法律ハ社會的福祉、自由、正義及民主主義ノ向上發展ノ爲ニ立案セラルヘシ

（無償）

自由、普遍的且強制的ナル教育ヲ設立スヘシ

兒童ノ私利的酷使ハ之ヲ禁止スヘシ

公共衛生ヲ改善スヘシ

社會的安寧ヲ計ルヘシ

勞働條件、賃銀及勤務時間ノ規準ヲ定ムヘシ

第二十五條　何人モ勞ク權利ヲ有ス

第二十六條　勞働者カ團結、商議及集團行爲ヲ爲ス權利ハ之ヲ保

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

障ス

第二十七條　財産ヲ所有スル權利ハ不可侵ナリ然レトモ財産權ハ公共ノ福祉ニ從ヒ法律ニ依リ定義セラルヘシ

第二十八條　土地及一切ノ天然資源ノ究極的所有權ハ人民ノ集團的代表者トシテノ國家ニ歸屬ス

國家ハ土地又ハ其ノ他ノ天然資源ヲ其ノ保存、開發、利用又ハ管理ヲ確保又ハ改善スル爲ニ公正ナル補償ヲ拂ヒテ收用スルコトヲ得

第二十九條　財産ヲ所有スル者ハ義務ヲ負フ其ノ使用ハ公共ノ利益ノ爲タルヘシ國家ハ公正ナル補償ヲ拂ヒテ私有財産ヲ公共ノ利益ノ爲ニ收用スルコトヲ得

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第三十條　何人モ裁判所ノ當該官吏カ發給シ訴追ノ理由タル犯罪ヲ明示セル逮捕狀ニ依ルニアラスシテ逮捕セラルルコト無カルヘシ但シ犯罪ノ實行中ニ逮捕セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　何人モ訴追ノ理由ヲ直チニ告ケラルルコト無ク又ハ直チニ辯護人ヲ依賴スル特權ヲ與ヘラルルコト無クシテ逮捕又ハ拘留セラレサルヘシ何人モ豫メ法律ニ定メタル手續ニ依ルニアラサレハ其ノ生命若ハ自由ヲ奪ハレ又ハ刑罰ヲ科セラルルコト無カルヘシ又何

第三十二條　何人モ國會ノ定ムル手續ニ依ルニアラサレハ其ノ生

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

人モ裁判所ニ上訴ヲ提起スル權利ヲ奪ハルコト無カルヘシ

第三十三條　人民カ其ノ身体、家庭、書類及所持品ニ對シ侵入、捜索及押收ヨリ保障セラルル權利ハ相當ノ理由ニ基キテノミ發給セラレ殊ニ捜索セラルヘキ場所及拘禁又ハ押收セラルヘキ人又ハ物ヲ表示セル司法逮捕狀ニ依ルニアラスシテ害セラルルコト無カルヘシ

各捜索又ハ拘禁若ハ押收ハ裁判所ノ當該官吏ノ發給セル各別ノ逮捕狀ニ依リ行ハルヘシ

第三十四條　公務員ニ依ル拷問ハ絶對ニ之ヲ禁ス

第三十五條　過大ナル保釋金ヲ要求スヘカラス又殘虐若ハ異常ナル刑罰ヲ科スヘカラス

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第三十六條　一切ノ刑事訴訟事件ニ於テ被告人ハ公平ナル裁判所ノ迅速ナル公判ヲ受クル權利ヲ享有スヘシ

刑事被告人ハ一切ノ證人ヲ反對訊問スル有ラユル機會ヲ與ヘラルヘク又自己ノ爲ノ證人ヲ公費ヲ以テ獲得スル積極的手續ニ對スル權利ヲ有スヘシ

被告人ハ常ニ資格アル辯護人ヲ依賴シ得ヘク若シ自己ノ努力ニ依リ辯護人ヲ得ル能ハサルトキハ政府ニ依リ辯護人ヲ附添セラルヘシ

第三十七條　何人モ普通權有ル裁判所ニ依ルニアラサレハ有罪ト宣言セラルルコト無カルヘシ

何人モ同一ノ犯罪ニ因リ再度厄ニ遭フコト無カルヘシ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第三十八條　何人モ自己ニ不利益ナル證言ヲ爲スコトヲ強要セラレサルヘシ

自白ハ強制、拷問若ハ脅迫ノ下ニ爲サレ又ハ長期ニ亘ル逮捕若ハ拘留ノ後ニ爲サレタルトキハ證據トシテ許容セラレサルヘシ

何人モ其ノ(自己)ニ不利益ナル唯一ノ證據カ其ノ自白ナル場合ニ(於テ)ハ有罪ノ(判)決又ハ(刑ノ宣告ヲ受クルコト無カ)ルヘシ

第三十九條　何人モ實行ノ時ニ於テ合法ナリシ行爲ニ因リ刑罰ヲ科セラルルコト無カルヘシ

第四章　國會

第四十條　國會ハ國家ノ權力ノ最高ノ機關ニシテ國家ノ唯一ノ法律制定機關タルヘシ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第四十一條　國會ハ三百人ヨリ少カラス五百人ヲ超エサル選擧セラレタル議員ヨリ成ル單一ノ院ヲ以テ構成ス

第四十二條　選擧人及國會議員候補者ノ資格ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ而シテ右資格ヲ定ムルニ當リテハ性別、人種、信條、皮膚色又ハ社會上ノ身分ニ因リ何等ノ差別ヲ爲スヲ得ス

第四十三條　國會議員ハ國庫ヨリ法律ノ定ムル適當ノ報酬ヲ受クヘシ

第四十四條　國會議員ハ法律ノ規定スル場合ヲ除クノ外如何ナル場合ニ於テモ國會ノ議事ニ出席中又ハ之ニ出席スル爲ノ往復ノ途中ニ於テ逮捕セラルルコト無カルヘク又國會ニ於ケル演說、討論又ハ投票ニ因リ國會以外ニ於テ法律上ノ責ヲ問ハルルコト

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

無カルヘシ

第四十五條　國會議員ノ任期ハ四年トス然レトモ此ノ憲法ノ規定スル國會解散ニ因リ滿期以前ニ終了スルコトヲ得

第四十六條　選擧、任命及投票ノ方法ハ法律ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第四十七條　國會ハ少クトモ毎年一回之ヲ召集スヘシ

第四十八條　內閣ハ臨時議會ヲ召集スルコトヲ得國會議員ノ二個ヨリ少カラサル者ノ請願アリタルトキハ之ヲ召集スルコトヲ要ス

第四十九條　國會ハ選擧及議員ノ資格ノ唯一ノ裁決者タルヘシ當選ノ證明ヲ有スルモ其ノ效力ニ疑アル者ノ當選ヲ拒否セントスルトキハ出席議員ノ多數決ニ依ルヲ要ス。

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第五十條　議事ニ行フニ必要ナル定足數ハ議員全員ノ三分ノ一ヨリ少カラサル數トス此ノ憲法ニ規定スル場合ヲ除クノ外國會ノ行爲ハ凡ヘテ出席議員ノ多數決ニ依ルヘシ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十一條　國會ハ議長及其ノ他役員ヲ選定スヘシ國會ハ議事規則ヲ定メ及ニ議員ヲ紊秩序ナル行動ニ因リ處罰及除名スルコトヲ得議員除名ノ動議有リタル場合ニ之ヲ實行セントスルトキハ出席議員ノ三分ノ二ヨリ少カラサル者ノ贊成ヲ要ス

第五十二條　法律ハ法律案ニ依ルニアラサレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

第五十三條　國會ノ議事ハ之ヲ公開スヘク秘密會議ハ之ヲ開クコ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

トヲ得ス國會ハ其ノ議事ノ記錄ヲ保存シ且發表スヘク一般公衆ハ此ノ記錄ヲ入手シ得ヘシ出席議員二割ノ要求アルトキハ議題ニ對スル各議員ノ賛否ヲ議事錄ニ記載スヘシ

第五十四條　國會ハ調査ヲ行ヒ證人ノ出頭及證言供述竝ニ記錄ノ提出ヲ強制シ且之ニ應セサル者ヲ處罰スル權限ヲ有スヘシ

第五十五條　國會ハ出席議員ノ多數決ヲ以テ總理大臣ヲ指定スヘシ總理大臣ノ指定ハ國會ノ他ノ一切ノ事務ニ優先シテ行ハルヘシ

國會ハ諸般ノ國務大臣ヲ設定スヘシ

第五十六條　總理大臣及國務大臣ハ國會ニ議席ヲ有スルト否トヲニ拘ハラス何時ニテモ法律案ヲ提出シ討論スル目的ヲ以テ出席スル

外務省

国立国会図書館
日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

コトヲ得質問ニ答辯スルコトヲ要求セラレタルトキハ出席スヘシ

第五十七條　內閣ハ國會カ全議員ノ多數決ヲ以テ不信任案ノ決議ヲ通過シタル後又ハ信任案ヲ通過セサリシ後十日以內ニ辭職シ又ハ國會ニ解散ヲ命スヘシ國會カ解散ヲ命セラレタルトキハ解散ノ日ヨリ三十日ヨリ少カラス四十日ヲ超エサル期間內ニ特別選擧ヲ行フヘシ新タニ選擧セラレタル國會ハ選擧ノ日ヨリ三十日以內ニ之ヲ召集スヘシ

第五十八條　國會ハ忠違訴訟ノ被告タル司法官ヲ裁判スル爲議員中ヨリ彈劾裁判所ヲ構成スヘシ

第五十九條　國會ハ此ノ憲法ノ規定ヲ施行スル爲必要ニシテ適當

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

ナル一切ノ法律ヲ制定スヘシ

第五章　内閣

第六十條　行政權ハ内閣ニ歸屬ス

第六十一條　内閣ハ其ノ首長タル總理大臣及國會ニ依リ授權セラルル其ノ他ノ國務大臣ヲ以テ構成ス

内閣ハ行政權ノ執行ニ當リ國會ニ對シ集團的ニ責任ヲ負フ

第六十二條　總理大臣ハ國會ノ輔弼及協賛ヲ以テ國務大臣ヲ任命スヘシ

總理大臣ハ個々ノ國務大臣ヲ任意ニ罷免スルコトヲ得

第六十三條　總理大臣缺員ト爲リタルトキ又ハ新國會ヲ召集スルトキハ内閣ハ總辭職ヲ爲スヘク新總理大臣指名セラルヘシ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

右指名アルマテハ内閣ハ其ノ責務ヲ行フヘシ

第六十四條　總理大臣ハ内閣ニ代リテ法律案ヲ提出シ一般國務及外交關係ヲ國會ニ報告シ並ニ行政府ノ各部及各支部ノ指揮及監督ヲ行フ

第六十五條　内閣ハ他ノ行政的責任ノホカ法律ヲ忠實ニ執行シ國務ヲ管理スヘシ

外交關係ヲ處理スヘシ

公共ノ利益ト認ムル條約、國際規約及協定ヲ事前ノ授權又ハ事後ノ追認ニ依ル國會ノ協賛ヲ以テ締結スヘシ

國會ノ定ムル規準ニ從ヒ内政事務ヲ處理スヘシ

年次豫算ヲ作成シテ之ヲ國會ニ提出スヘシ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

此ノ憲法及法律ノ規定ヲ實行スル爲命令及規則ヲ發スヘシ然レトモ右命令又ハ規則ハ刑罰規定ヲ包含スヘカラス

大赦、恩赦、減刑、執行猶豫及復權ヲ賦與スヘシ

第六十六條　一切ノ國會制定法及行政命令ハ、當該國務大臣之ニ署名シ總理大臣之ニ副署スヘシ

第六十七條　內閣大臣ハ總理大臣ノ承諾無クシテ在任中訴追セラルルコト無カルヘシ然レトモ此ノ理由ニ因リ如何ナル訴權モ害セラルルコトナシ

第六章　司法

第六十八條　獨力ニシテ獨立ナル司法府ハ人民ノ權利ノ堡壘ニシテ全司法權ハ最高法院及國會ノ隨時設置スル下級裁判所ニ歸屬

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

ス

特別裁判所ハ之ヲ設置スヘカラス又行政府ノ如何ナル機關又ハ
支部ニモ最終的司法權ヲ賦與スヘカラス

判事ハ凡ヘテ其ノ良心ノ行使ニ於テ獨立タルヘク此ノ憲法及其
レニ基キ制定セラルル法律ニノミ拘束セラルヘシ

第六十九條　最高法院ハ規則制定權ヲ有シ其レニ依リ訴訟手續規
則、辯護士ノ資格、裁判所ノ內部規律、司法行政ニ司法權ノ
自由ナル行使ニ關係アル其ノ他ノ事項ヲ定ム

檢事ハ裁判所ノ規則制定權ニ服スヘシ

最高法院ハ下級裁判所ノ規則ヲ制定スル權限ヲ下級裁判所ニ委
任スルコトヲ得

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第七十條　判事ハ公開ノ彈劾ニ依リテノミ罷免スルコトヲ、得行政機關又ハ支部ニ依リ懲戒處分ニ附セラルルコト無カルヘシ

第七十一條　最高法院ノ首席判事及國會ノ定ムル員數ノ普通判事ヲ以テ構成ス右判事ハ凡ヘテ內閣ニ依リ任命セラレ不都合ノ所爲無キ限リ滿七十歲ニ到ルマテ其ノ職ヲ免セラルルコト無カルヘシ但シ右任命ハ凡ヘテ任命後最初ノ總選擧ニ於テ、爾後ハ次ノ元位確認後十箇年經過直後行ハルル總選擧ニ於テ、審査セラルヘシ若シ選擧民カ判事ノ罷免ヲ多數決ヲ以テ議決シタルトキハ右判事ノ職ハ缺員ト爲ルヘシ

右ノ如キ判事ハ凡ヘテ定期ニ通常ノ報酬ヲ受クヘシ報酬ハ任期中減額セラルルコト無カルヘシ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第七十二條　下級裁判所ノ判事ハ各議員ニ付最高法院ノ指名スル少クトモ二人以上ノ候補者ノ氏名ヲ包含スル表ノ中ヨリ內閣之ヲ任命スヘシ右判事ハ凡ヘテ十年ノ任期ヲ有スヘク再任ノ特權ヲ有シ定期ニ適當ノ報酬ヲ受クヘシ報酬ハ任期中減額セラルルコト無カルヘシ判事ハ滿七十歳ニ達シタルトキハ退職スヘシ

第七十三條　最高法院ハ最終裁判所ナリ法律、命令、規則又ハ官憲ノ行爲ノ憲法上合法ナリヤ否ヤノ決定カ問題ト爲リタルトキハ憲法第三章ニ基ク又ハ關聯スル有ラユル場合ニ於テハ最高法院ノ判決ヲ以テ最終トス法律、命令、規則又ハ官憲ノ行爲ノ憲法上合法ナリヤ否ヤノ決定カ問題ト爲リタル其ノ他ノ有ラユル場合ニ於テ下級裁判所ハ最高法院ノ判決ヲ再審スルコトヲ得

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

再審ニ附スルコトヲ得ル最高法院ノ判決ハ國會議員全員ノ三分ノ二ノ賛成ヲ以テノミ之ヲ破棄スルコトヲ得國會ハ最高法院ノ判決ノ再審ニ關スル手續規則ヲ制定スヘシ

第七十四條　外國ノ大使、公使及領事ニ關係アル一切ノ事件ニ於テハ最高法院ハ(八)專屬的原始管轄ヲ有ス

第七十五條　裁判ハ公開廷ニ於テ行ヒ判決ハ公然言ヒ渡スヘシ然レトモ裁判所カ公開ヲ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ害有リト全員一致ヲ以テ決スルトキハ非公開ニテ裁判ヲ行フコトヲ得但シ政治的犯罪、定期刊行物ノ犯罪及此ノ憲法第三章ノ確保スル人民ノ權利カ問題ト爲レル場合ニ於ケル裁判ハ例外ナク公開セラルヘシ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第七章　財政

第七十六條　租稅ヲ徴シ、金錢ヲ借入レ、資金ヲ使用シ及通貨ヲ發行シ及其ノ價格ヲ規整スル權限ハ國會ヲ通シテ行使セラルヘシ

第七十七條　國會ノ行爲ニ依リ又ハ國會ノ定ムル條件ニ依ルニアラサレハ新タニ租稅ヲ課シ又ハ現行ノ租稅ヲ變更スルコトヲ得ス

此ノ憲法發布ノ時ニ於テ效力ヲ有スル一切ノ租稅ハ現行ノ規則カ國會ニ依リ變更セラルルマテ引キ續キ現行ノ規則ニ從ヒ徴集セラルヘシ

第七十八條　充當スヘキ特別豫算無クシテ契約ヲ締結スヘカラス

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

又國會ノ承認ヲ得ルニアラサレハ國家ノ資產ヲ貸與スヘカラス

第七十九條　內閣ハ、一切ノ支出計畫ヲ歲入及借入豫想ヲ含ム次期會計年度ノ全財政計畫ヲ示ス年次豫算ヲ作成シ之ヲ國會ニ提出スヘシ

第八十條　國會ハ豫算ノ項目ヲ不承認、減額、增額若ハ却下シ又ハ新タナル項目ヲ追加スルコトヲ得

國會ハ如何ナル會計年度ニ於テモ借入金額ヲ含ム同年度ノ豫想歲入ヲ超過スル金錢ヲ支出スヘカラス

第八十一條　豫期セサル豫算ノ不足ニ備フル爲ニ內閣ノ直接監督ノ下ニ支出スヘキ豫備費ヲ設クルコトヲ許スコトヲ得

內閣ハ豫備費ヲ以テスル一切ノ支出ニ關シ內閣ニ對シ責任ヲ負

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

フヘシ

第八十二條　世襲財產ヲ除クノ外皇室ノ一切ノ財產ハ國民ニ歸屬スヘシ一切ノ皇室財產ヨリ生スル收入ハ國庫ニ納入スヘシ而シテ法律ノ規定スル皇室ノ手當及費用ハ國會ニ依リ年次豫算ニ於テ支辨セラルヘシ

第八十三條　公共ノ會計又ハ財產ハ如何ナル宗教團體若ハ社團ノ使用、利益若ハ支持ノ爲又ハ國家ノ管理ニ服ササル如何ナル慈善、教育若ハ博愛ノ爲ニモ、充當セラルルコト無カルヘシ

第八十四條　會計檢査院ハ每年國家ノ一切ノ支出及歲入ノ最終的會計檢査ヲ爲シ內閣ハ次年度中ニ之ヲ國會ニ提出スヘシ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

會計檢査院ノ組織及權限ハ國會之ヲ定ムヘシ

第八十五條　內閣ハ定期ニ且少クトモ毎年財政狀態ヲ國會及人民ニ報告スヘシ

第八章　地方政治

第八十六條　府縣知事、市長、町長、假稅權ヲ有スル其ノ他ノ一切ノ下級自治体及法人、府縣及地方議會ノ議員ハ其ノ住民ニ依リ選擧セラルヘシ

第八十七條　首都地方、市及町ノ住民ハ彼等ノ財產、事務及政治ヲ處理シ竝ニ國會ノ制定スル法律ノ範圍內ニ於テ彼等自身ノ憲章ヲ作成スル權利ヲ奪ハルルコト無カルヘシ

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第八十八條　國會ハ一般法律ノ適用セラレ得ル首都地方、市又ハ町ニ適用セラルヘキ地方的又ハ特別ノ法律ヲ通過スヘカラス但シ右社會ノ選擧民ノ大多數ノ受諾ヲ條件トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九章　改正

第八十九條　此ノ憲法ノ改正ハ議員全員ノ三分ノ二ノ贊成ヲ以テ國會之ヲ發議シ人民ニ提出シテ承認ヲ求ムヘシ人民ノ承認ハ國會ノ指定スル選擧ニ於テ、贊成投票ノ多數決ヲ以テ之ヲ determine スヘシ右ノ承認ヲ經タル改正ハ直ニ此ノ憲法ノ要素トシテ人民ノ名ニ於テ皇帝之ヲ公布スヘシ

第十章　至上法

外務省

国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第九十條　此ノ憲法ニ之ニ基キ制定セラルル法律及條約ハ國民ノ至上法ニシテ其ノ規定ニ反スル公ノ法律若ハ命令及詔勅若ハ其ノ他ノ政府（沼上）ノ行爲又ハ其ノ部分ハ法律上ノ效力ヲ有セサルヘシ

第九十一條　皇帝皇位ニ即キタルトキ政ニ攝政、國務大臣、國會議員、司法府員及其ノ他ノ一切ノ公務員其ノ官職ニ就キタルトキハ、此ノ憲法ヲ尊重擁護スル義務ヲ負フ

此ノ憲法ノ效力發生スル時ニ於テ官職ニ在ル一切ノ公務員ハ右ト同樣ノ義務ヲ負フヘク其ノ後任者ノ選擧又ハ任命セラルルマテ其ノ官職ニ止マルヘシ

第十一章　承認

外務省

国立国会図書館

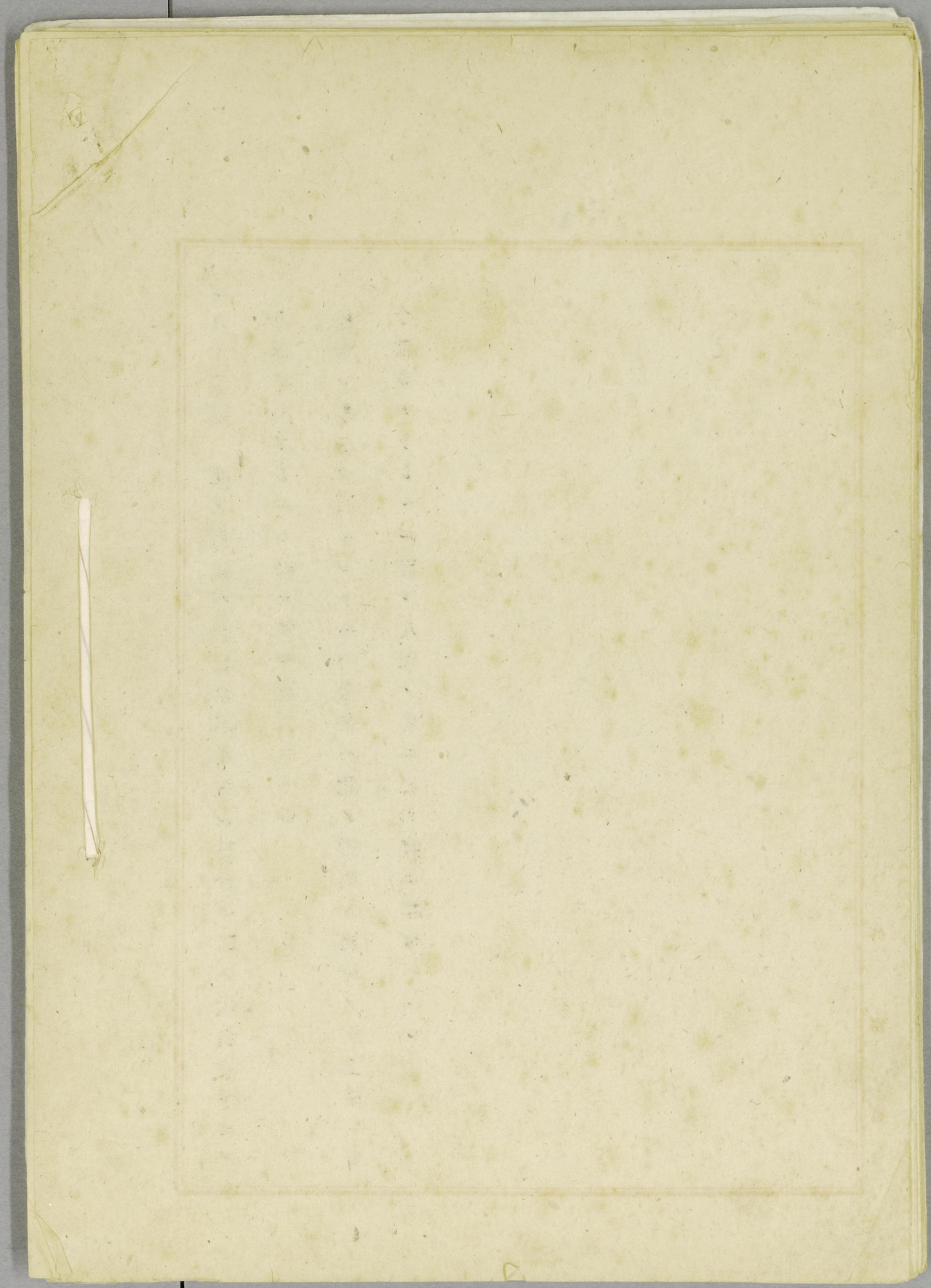
日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33

第九十二條　此ノ憲法ハ國會カ出席議員三分ノ二ノ氏名點呼ニ依リ承認サラレタル時ニ於テ確立スヘシ

國會ノ承認ヲ得タルトキハ皇帝ハ此ノ憲法カ國民ノ至上法トシテ確立セラレタル旨ヲ人民ノ名ニ於テ直ニ宣布スヘシ

外務省

国立国会図書館
日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33



国立国会図書館

日本国憲法　昭和21年2月13日　マッカーサー草案の外務省仮訳　佐藤達夫関係文書33